

## 精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名： 京大精神科専門研修プログラム

■ プログラム担当者氏名： 村井 俊哉

住 所： 〒606-8501 京都市左京区聖護院川原町 54

電話番号： 075 - 751 - 3384

F A X： 075- 751 - 3246

E-mail： murai@kuhp.kyoto-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：( 20 ) 人

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：〒606-8501 京都市左京区聖護院川原町 54

京都大学医学部附属病院精神科 秘書室

(「精神科専門医研修プログラム応募書類在中」と朱書のこと)

■ 採用判定方法：

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

### I 専門研修の理念と使命

#### 1. 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

#### 2. 使命 (全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

#### 3. 専門研修プログラムの特徴

京都大学医学部精神科神経科は、1903年の講座開設以来、100年を超える歴史

と伝統をもち、精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現在も日本の精神医療を牽引する存在として、500 人を超える同門会員が日本全国で活躍している。研究面では、伝統である精神病理学を中心に、神経科学から社会科学に至る幅広い領域において大きな業績を残している。

3 年間の精神科専門研修プログラムでは、幅広い知識と経験を備えた精神科医を育成するため、大学病院、総合病院精神科、および精神科病院での研修を基本コースとしている。一方、専攻医の興味や志向性にも配慮し、児童思春期の専門医療機関や精神保健行政機関での研修、および京都大学大学院医学研究科での臨床研究など、多様な選択肢を用意している。

基幹病院となる京都大学医学部附属病院の精神科は、大学病院精神科として最大規模の 44 床（保護室 6 床）の閉鎖病棟を有し、難治性精神疾患、身体合併症、救急症例を含む精神科領域のほとんどのケースに対応しており、精神疾患の診断および治療について基礎的な知識と技能を身につける上で最適な環境である。また、基礎研究および臨床研究に触れる機会も十分に得られる。

連携病院はほとんどが京都府とその隣の府県に位置し、医療面でも常に連携を行っている。

大阪赤十字病院、北野病院といった都市型の総合病院精神科では、主に外来治療やリエゾン・コンサルテーション領域について経験を積む。また、精神科病床を有する場合は、身体合併症やストレスケアの入院治療も行っている。

一方、洛南病院、いわくら病院などの精神科病院では、急性期治療を中心に、慢性期の統合失調症、認知症、物質依存などの入院治療の経験を積みながら、地域医療についても学ぶ。

豊岡病院などの地域の中核を担う総合病院精神科では、地域医療とリエゾン・コンサルテーション等を併せて学ぶことができる。

さらに、児童福祉センターや精神保健福祉センター、てんかんセンターでの研修や、大学院での臨床研究など、専攻医の興味や志向性に応じて多様な選択肢を用意している。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：109人
- 一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4 2 2 5	1 1 6 5
F1	1 2 0 3	6 6 4

F2	1 0 4 8 8	4 7 0 3
F3	8 8 6 1	1 8 0 0
F4 F50	7 9 3 4	6 0 9
F4 F7 F8 F9 F50	8 6 0 3	5 3 4
F6	3 8 0	5 3 3
その他	1 8 9 6	2 1 1

## 2. 連携施設名と各施設の特徴

### A 研修基幹施設

- ・施設名：京都大学医学部附属病院
- ・施設形態：公的有床総合病院
- ・院長名：宮本亨
- ・プログラム統括責任者氏名：村井俊哉
- ・指導責任者氏名：村井俊哉
- ・指導副責任者氏名：久保田学
- ・指導医人数：(12) 人
- ・精神科病床数：(44) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	188	29
F1	50	9
F2	871	107
F3	1070	75
F4 F50	786	32
F4 F7 F8 F9 F50	134	5

F6	70	2
その他	54	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 1131 床を有する大学病院であり、精神科は大学病院としては最大規模の 44 床の閉鎖病棟を有している。1 年間の初診患者は 1054 名、1 日平均外来患者数は 132 名、1 年間の入院患者数は 259 名、平均在院日数は 70 日となっている。高度専門医療機関として、重症・難治性の統合失調症（F2）や気分症（F3）を中心に治療に当たっている。また摂食症、高次脳機能障害など専門領域の診断・治療や、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。精神病理学、脳画像研究、精神療法、てんかんに関するセミナーや勉強会も定期的を開催している。

B 研修連携施設

1) 施設名：大阪赤十字病院

- ・施設形態：公的有床総合病院
- ・院長名：坂井義治
- ・指導責任者氏名：和田央
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 42 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	174	12
F1	27	8
F2	594	77
F3	780	25
F4 F50	518	28
F4 F7 F8 F9 F50	23	4
F6	10	0

その他	376	10
-----	-----	----

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

急性精神症状態、周産期の精神症、ステロイド、パーキンソン病治療薬などによる精神障害が入院治療の中心です。

2) 施設名：京都府立洛南病院

- ・施設形態：公立精神科病院
- ・院長名：吉岡隆一
- ・指導責任者氏名：吉岡隆一
- ・指導医人数：（ 8 ）人
- ・精神科病床数：（ 256 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	306	93
F1	79	55
F2	851	278
F3	389	74
F4 F50	163	24
F4 F7 F8 F9 F50	306	45
F6	18	13
その他	71	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、昭和20年6月に開設された京都府内唯一の公立精神科病院で、京都府南部の精神科救急医療システムにおける基幹病院の役割を果たしています。併せて、精神科デイケア、認知症外来、思春期外来等にも取り組み、思春期から高齢者、急性期からリハビリテーションまで総合的取り組みを進めています。心神喪失者等医療観察法の鑑定入院や指定通院を受けており、司法精神医療の診療も行っています。

さらに、平成25年秋からは薬物治療抵抗性うつ病に対する反復性経頭蓋磁

気刺激治療（rTMS）の臨床研究を開始し、一定の研究成果をあげています。併せてうつ症状の補助診断として光トポグラフィー検査を導入し、治療に活用しています。

3) 施設名：医療法人稲門会 いわくら病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：崔 炯仁
- ・指導責任者氏名：崔 炯仁
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 441 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	88	189
F1	353	267
F2	393	454
F3	237	152
F4 F50	92	38
F4 F7 F8 F9 F50	20	12
F6	2	6
その他	133	13

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

平安時代から精神障がいをもった人たちと地域でともに在った、かつて「日本のゲール」と称された京都市北部、岩倉の地にあり、開放医療を行っている民間単科精神科病院である。精神病床 441 床、介護療養病床 60 床、9 病棟からなり、認知症治療病棟以外の病棟（急性期治療病棟も含む）は開放病棟である。利用者ご本人の意思を尊重し、納得して治療を受けていただくことを大切にしており、任意入院率（2014 年度）が一般精神急性期治療病棟にあっても 89.8%、病院全体では 90%である。病院でしか果たせない機能である入院治療を地域に開き、地域精神医療の一翼を担うことを進めてきた。その結果、病病・病診連携はもちろん、さまざまな地域

資源との連携が進み、年々新規入院者数が増えており、紹介率が67%と高い。

アウトリーチも徐々に進めて、地域精神医療にさらに積極的に関与していこうとしている。年々増加傾向にあり、2014年度実績では、退院前訪問は136件/月、2つの訪問看護ステーションからの訪問件数は640件/月、往診・在宅診療は20件/月であった。保健センターでの精神保健福祉相談にも可能な限り協力している。

「WRAP（元気回復行動プラン）」などの当事者主体のセルフ・ヘルプ、ピア・サポートの視点でエンパワメントに役立つプログラムも立ち上げて、利用者自身が病気をもちながら生きていく中で積んできた、専門家といってもよい貴重な経験に基づいた言葉を用いて交流し、その経験を共有することで、利用者だけでなくスタッフも互いに学び合い、自身についての理解を深めて、自らが主人公に据えて取り組んでいきたい。それでもなお残ってくるものこそが医療の専門家として支援しなければならないものであり、その点での医療の提供を慎ましく適切に行うという考えを推し進めていこうとしている。

専門治療としては、以下のことに取り組んでいる。京都府で唯一のアルコール依存症専門治療病棟（急性期治療病棟）を有し、地域の自助グループや公的機関、精神科だけでなく一般身体科の病院・診療所とも連携してアルコール依存症の専門治療を行っている。認知症治療病棟を有し、認知症専門医もいる。認知症に対する入院治療はできるかぎりBPSDによる不可避なものにとどめ往診・在宅診療や訪問看護を可能な限り提供して、地域資源と連携して地域生活を支援することを模索している。一般精神急性期治療病棟において、摂食症の入院治療に取り組んでいる。摂食症の入院治療機関が少ない状況の中にあり一定の貢献を果たしている。難治統合失調症に対するクロザピンの登録医療機関である。入院集団精神療法を行っている。

高齢化に伴う身体合併症への対応も、非常勤の一般身体科医師と協力しながら院内で対応しているほか、適宜一般病院と密に連携しながら行っている。

#### 4) 施設名：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院

- ・施設形態：私立無床総合病院
- ・院長名：秦大資
- ・指導責任者氏名：高木賢一
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	74	0
F1	11	0
F2	238	20
F3	323	48
F4 F50	170	4
F7 F8 F9	36	0
F6	7	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科の入院病床はなく、外来およびリエゾンを行っている。外来では広義の気分症が多数をしめるが、統合失調症や神経症、パーソナリティ症などのケースも幅広く診療している。総合病院なので他診療科からの依頼による受診もかなりの比率を占めており、他科と連携しながら診療を継続してゆく例が多い。

5) 公立豊岡病院組合立豊岡病院

- ・施設形態：公的有床総合病院
- ・院長名：三輪聡一
- ・指導責任者氏名：三木寛隆
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 51 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	479	18
F1	121	25
F2	861	81
F3	375	43
F4 F50	954	11

F7 F8 F9	103	35
F6	3	0
その他	105	24

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高齢化がすすんだ広大な診療圏をもち、3次救急に当たる総合病院の有床精神科である。精神科急性期治療病棟としては、入院は器質性から児童関連まで幅広く対応し、診療圏内の精神科病床への新規入院例の約半数を受けいれている。身体合併症を有するケースも数多い。mECTやクロザピンによる治療を行っている。

認知症疾患医療センターを引き受けて、鑑別診断や周辺症状への対応をおこなっている。

他科との関係では、リエゾンチームによる譫妄等のコンサルテーションにも積極的に対応している。緩和ケアチームへの活動にも参画している。

公的病院であることから警察や行政を通じた事例化にも対応している。簡易鑑定や起訴前本鑑定、医療観察法指定通院医療機関として司法事例にも取り組んでいる。

保健所精神保健相談、児童相談所の嘱託や知的発達症者施設の相談診療など地域保健医療での役割も大きい。

6) 施設名：光愛病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：藤川昌典
- ・指導責任者氏名：藤川昌典
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 199 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	88	137
F1	72	45
F2	933	413

F3	616	204
F4 F50	676	148
F7 F8 F9	394	76
F6	36	22
その他	273	83

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は都市型の中核的な単科精神科病院であり、精神科急性期治療病棟を中心とし2つの一般治療病棟（認知症を含む高齢者病棟と亜急性期病棟）及び重度かつ慢性の統合失調症圏の療養病床からなり、入院精神科医療全般について学ぶことができる。

医療の特徴としては、地域での生活のあり方を重要視しており、多職種でのカンファレンスが日常的に行われている。また、在宅医療およびリハビリテーションも充実している。

対象となる疾患は、児童思春期の神経発達症圏を含む精神科疾患から統合失調症圏、気分症圏、神経症性障害圏、認知症圏に至るまで幅広い精神科疾患を対象としており、精神科医として最低限経験すべき疾患をカバーしている。さらに、在宅医療およびリハビリテーションの領域では、それぞれの患者さんのライフサイクルに応じた地域での生活に関する知見が得られ、リハビリテーションの領域では、精神障害のある方の就労支援、雇用支援にかんしての医療的関わりを経験できる。また、医療観察法通院指定医療機関としての地域での役割も担っている。

「入院医療中心から地域生活中心に」という精神科医療の方向性を具現化した医療活動を実践しており、今後、精神科医に求められる多様な知識、技能を修得できる。

7) 施設名：杉田玄白記念公立小浜病院

- ・施設形態：公的有床総合病院
- ・院長名：菅野元喜
- ・指導責任者氏名：山村茂樹
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 100 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	23	14
F1	12	17
F2	121	71
F3	178	30
F4 F50	344	22
F4 F7 F8 F9 F50	61	9
F6	5	2
その他	54	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は456床を有する嶺南の中核病院、総合病院であり、身体合併を併存する精神疾患を中心に多彩な疾患、症例を経験できる100床の精神科病棟を有している。身体合併症治療に加え、統合失調症、気分症、認知症、思春期症例を含む多様な精神疾患の実戦経験を積める。アルコール病棟は無いが、AA（アルコホーリクス・アノニマス）ミーティングが毎週外来待合室で行われている。治療抵抗性統合失調症に対するクロザリル治療も行っている。

8) 施設名：社会福祉法人京都博愛会 京都博愛会病院

- ・施設形態：私立総合病院
- ・院長名：金盛彦
- ・指導責任者氏名：荒木賢介
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 186 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	39	28
F1	11	7

F2	215	154
F3	187	40
F4 F50	84	7
F7 F8 F9	20	11
F6	4	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は一般病院の精神科でありながら 186 床の精神病床を有する指定病院であり、重症例を含め統合失調症（F2）、気分症（F3）、神経性症性障害（F4）、摂食症（F50）、神経発達症（F6）などの治療に当たっている。また 204 床の一般病棟を有しているため、認知症（F0）、リエゾンコンサルテーションの症例を数多く経験することができるのみならず、精神症状の重い身体合併症症例を数多く受け入れ、必要に応じて精神病棟でも治療を行っている。また、回復期リハビリテーション病棟を有しているため、器質性精神障害（F0）の症例も多い。

9) 施設名：京都桂病院

- ・施設形態：公的無床総合病院
- ・院長名：大久保和俊
- ・指導責任者氏名：挾間雅章
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	180	0
F1	30	0
F2	160	0
F3	170	0
F4 F50	450	0

F7 F8 F9	260	0
F6	30	0
その他	60	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

- ① 関連施設として養護施設「つばさ園」と情緒障害児短期治療施設「ももの木学園」を付設されており、当科の医師が入所児童の診察をしているので、児童・思春期の患者の診察を多数経験できる。
- ② 成人の神経発達症の紹介が多く、その外来診察も経験できる。
- ③ 認知症の二次診断医療機関として西京区では中核の病院であり、認知症に関して地域連携の実際を経験できる。
- ④ 「緩和医療チーム」や「せん妄・認知症ケアチーム」の中心的なメンバーになっており、チーム医療を経験できる。
- ⑤ リエゾン・コンサルテーションの依頼が多く、常時、緩和医療、せん妄の治療や認知症のケアを実践できる
- ⑥ 精神科のカンファレンスで、質の高いケースカンファレンスに参加できる。
- ⑦ CPCや院内の講演会が頻繁に行われており、幅広い知識を身につけられる

10) 施設名：関西青少年サナトリウム

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：鬼頭 あつ志
- ・指導責任者氏名：内藤憲一
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 402 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	43	27
F1	19	16
F2	677	516
F3	256	140

F4 F50	1 4 5	4 3
F4 F7 F8 F9 F50	3 9	4
F6	1 6	4
その他	8 0	8

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 402 床を有する単科精神科病院であり、病棟種別としては「精神一般病棟」「精神科急性期病棟」「精神療養病棟」を有している。疾患としては統合失調症、気分症、神経症性障害などをはじめ、思春期症例、認知症など幅広い症例を対象とした治療を行っている。難治性精神疾患に対してはクロザリルや修正型電気けいれん療法（m-ECT）などの治療も取り入れている。多職種が連携してチーム医療を行い、多面的な視点から患者・家族の生活全般を視野に入れた支援を行っている。就労支援、アウトリーチサービス（訪問診療等）の提供にも力を入れているところである。また、各種の地域医療・福祉機関と緊密な連携関係を保っており、地域医療の一端を担っている。

研修医は急性期や回復過程での治療・リハビリ、退院後の外来治療までを主治医（または副主治医）として一貫して取り組むことになる。また、様々な症例、多職種、他機関との連携などにより病院内だけではなく地域での医療を通して精神科臨床医としての多面的な経験を得ることができる。

1 1) 施設名：京都医療センター

- ・施設形態：公的無床総合病院
- ・院長名：川端 浩
- ・指導責任者氏名：杉田尚子
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間） 初診外来患者数 リエゾン初診患者数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	11	0
F1	13	0

F2	44	0
F3	144	0
F4 F50	180	0
F4 F7 F8 F9 F50	182	0
F6	20	0
その他	2	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

本院は、600床の総合病院で、救命救急センターを有する急性期医療の施設である。

精神科病床は無いが、病棟で精神症状が問題となれば、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療が必要となる。公的病院で総合病院のため外来治療においては、受診の敷居が低く、多彩な患者が訪れ、精神科医として、鑑別診断と適切な治療介入、柔軟な精神療法、繊細な薬物療法を求められる治療実践の場でもある。

1 2) 施設名：大阪府立精神医療センター

- ・施設形態：公的精神科病院
- ・院長名：岩田和彦
- ・指導責任者氏名：岩田和彦
- ・指導医人数：（ 8 ）人
- ・精神科病床数：（ 473 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	57	35
F1	170	120
F2	187	688
F3	236	139

F4 F50	425	95
F4 F7 F8 F9 F50	491	121
F6	54	25
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大阪府の公的精神科単科病院として約90年の歴史を有し、急性期から社会復帰まで、さらに小児から高齢者まで、様々な精神疾患の診療を担っている。

スーパー救急病棟（40床）では措置入院を含む多くの非自発的入院症例を経験でき、統合失調症圏や気分症圏などの急性期治療を学ぶことができる。さらに医療観察法病棟（33床）、児童思春期病棟（50床）を有し、司法精神医学や児童思春期精神医学領域の研修も可能である。難治性精神疾患を受け入れ、修正型電気けいれん療法やクロザピン治療を行うとともに、依存症治療拠点医療機関に指定されており、依存症治療にも取り組んでいる。

また保健所や地域生活支援センターなどの地域の関係機関と連携しながら、精神障害をもつ人の退院支援を積極的に行っている。在宅医療室では年間延べ5000件以上のアウトリーチ活動を実施しており、慢性期症例の地域生活支援も研修することができる。

1 3) 施設名：聖和錦秀会阪本病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：胡谷和彦
- ・指導責任者氏名：胡谷和彦
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 312 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	165	143
F1	19	35
F2	1042	583

F3	738	296
F4 F50	383	63
F7 F8 F9	50	14
F6	47	30
その他	12	18

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

病院全体でリカバリーの視点を大切にしており、リカバリーを重視した精神科医療を学ぶことが出来る。

心理社会的療法としての様々なグループ療法の研修が可能である。グループでの心理教育（統合失調症圏、気分症圏）、当事者研究、WRAP（元気回復行動プラン）、SST、コミュニティ・ミーティングなど、セルフヘルプかつピアサポート的な様々な取り組みを行っており、それらを研修することが可能である。

認知症治療病棟以外の病棟は全て開放の基準に従っており、開放的な精神科医療を体験し学ぶことが出来る。

病棟でのチームカンファレンスも医師毎に毎週行っており、チーム医療についても重点的に経験できる。

1 4) 施設名：大津赤十字病院

・施設形態：公的無床総合病院

・院長名：小川修

・指導責任者氏名：田中祐輔

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 0 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	98	0
F1	19	0
F2	275	0
F3	355	0

F4 F50	342	0
F4 F7 F8 F9 F50	389	0
F6	5	0
その他	82	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、稼働病床 781 床を有する総合病院であり、救急医療・母子の周産期医療・癌診療等の様々な分野で地域の中心的な医療機関である。精神病床は休床中であるが、外来治療での精神疾患への対応の他、身体各科入院中あるいは外来治療中の身体合併症を併存する精神疾患患者や身体治療中に生じた精神障害例について、多種多様の疾患や症例を経験することが可能である。通常精神科への対診の他、緩和ケアチームへの関与や、認知症看護認定看護師と連携してせん妄等への対応も実施し、コンサルテーション・リエゾン精神医学を重視している。

1 5) 施設名：京都市児童福祉センター 診療所

- ・施設形態：公的診療所
- ・院長名：村松陽子
- ・指導責任者氏名：村松陽子
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	5	0
F3	1 3	0
F4 F50	1 3 8	0
F4 F7 F8 F9 F50	4 1 5 5	0
F 6	2	0

その他	96	0
-----	----	---

施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

受診者の中心は児童で、そのうち大半を占める神経発達症（F7・8・9）領域についての専門的な研修が可能です。児童相談所、知的発達症者更生相談所、発達障害者支援センターが関連施設であり、詳細、かつ包括的な子ども支援が学べます。福祉分野・教育分野との連携についても実践的研修が行えます。

16) 施設名：独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：今井克美
- ・指導責任者氏名：西田拓司
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	495	114
F1	0	0
F2	78	45

F3	3 9	2 4
F4 F50	2 1	2 1
F4 F7 F8 F9 F50	1 9 5	1 2 3
F6	0	4 1 8
その他	0	0

施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）：

てんかん専門病院（てんかん診療拠点機関）として、全国から難治なてんかん患者が多数集まる（てんかん病床 200 床）。てんかんの診断に必要な、脳波検査、神経画像検査、血中濃度を含む血液検査、神経心理検査などさまざまな検査を実施しており、てんかんの国際分類に沿った適切なてんかん診断を行っている。薬物治療、外科治療、食事療法などてんかん特有の治療法を習得できる。てんかんに伴う精神症状は多彩で、それらに対する診断、薬物治療、リハビリテーションを、小児期から老年期まで、積極的に行っている。ただし、精神科病床はなく、一般病床での診療となる。

静岡市の認知症疾患医療センターとして、認知症の診断・治療、周辺症状への対応、地域連携の推進、研修・啓発、情報発信を行っている。

また、神経発達症（自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症）の診断・治療・指導を、心理士および療育指導員とともに、静岡県中部・東部を診療圏に行っている。

さらに、睡眠障害（特に過眠症）の診断・治療を専門外来・入院で行っている。

1 7) 施設名：滋賀里病院

・施設形態：私立精神科病院

・院長名：栗本藤基

・指導責任者氏名：栗本藤基

・指導医人数：（ 2 ）人

・精神科病床数：（ 299 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	19	5
F1	10	7
F2	301	114
F3	424	133
F4 F50	147	23
F7 F8 F9	57	14
F6	5	1
その他	55	10

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神一般、精神科急性期治療病棟 1、精神療養病棟で合計 299 床を有する単科精神科病院である。入院治療については、主に難治性症例を中心に、統合失調症（F2）・気分症（F3）・神経症性障害（F4）・認知症（F0）の治療にあたっている。

外来では、思春期・ストレスケア・高次脳機能障害・ひきこもりの 4 つの専門外来を有し、時代の変化でますます多様化する精神科領域のニーズに対応できる体制を整えている。上記内容に加え、内観・武道・演劇・田んぼ・信州の森・琵琶湖を活用し他院にない治療環境を提供している。

また、院内に病院行事委員会を設置して、夏祭り・運動会・注連縄作り・餅つき等、伝統行事を身近に感じるふれあいの場作りを常に心掛けている。

1 8) 施設名：もみじヶ丘病院

- ・施設形態：私立精神病院
- ・院長名：芝伸太郎
- ・指導責任者氏名：芝伸太郎
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 380 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	40	62
F1	13	9
F2	141	319
F3	105	62
F4 F50	79	2
F7 F8 F9	18	11
F6	1	3
その他	37	19

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症、気分症などの精神病圏の疾患が中心であるが、認知症治療病棟を開設した事で、様々な形の認知症の治療に携わることができる。また、措置症例、器質・症状精神症圏、中毒性障害、思春期などの症例もあり、精神保健指定医の取得が可能である。

19) 施設名：医療法人 緑誠会 光の丘病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：馬屋原健
- ・指導責任者氏名：石岡芳隆
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 175 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	280	38
F1	89	25
F2	601	76
F3	428	37

F4 F50	315	10
F4 F7 F8 F9 F50	469	15
F6	14	1
その他	13	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島県東部に位置する福山市（人口約47万人）という地方中核都市の郊外にある175床の小～中規模病院である。人口増加率の高い駅家町や神辺町を含む福山市北西部、そして高齢化率の高い府中市市街地区域における唯一の精神科病院として、また福山・府中二次医療圏における唯一の認知症疾患医療センターとして地域の総合的な精神科医療・相談機関としての役割を果たしている。

平成26年度の初診患者数は546人、1日平均外来患者数は120人、入院患者数は224人、退院者数は239人である。また認知症疾患医療センターの実績としては認知症疾患外来患者数1237人（内鑑別診断数は136人、入院者数51人）である。当院の特徴の1つとして総合回診を毎週火曜日の午前中に常勤医師、看護師、薬剤師、PSW、CP、OTR、栄養士で行っている。各病棟の入退院報告、入院2か月経過時アセスメント、措置入院患者及び医療保護入院患者の定期病状報告を簡潔に行い多職種が参加し様々な意見を反映させる場として機能している。また治療の平準化を目指し3疾患（統合失調症、アルコール依存症、認知症）のクリニカルパスの導入しておりクリニカルパス推進委員会を発足してより良いクリニカルパスの作成及び実施に向けた検討を行っている。

20) 施設名：医療法人周行会 湖南病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：柴崎守和
- ・指導責任者氏名：柴崎守和
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 116 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	84	2
F1	15	1

F2	735	154
F3	599	76
F4 F50	402	0
F4 F7 F8 F9 F50	540	0
F6	7	0
その他	43	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域に根差した精神科医療を心がけていて、多種の精神疾患の患者が受診します。受診者は、統合失調症を含む精神症圏のF2、気分症圏のF3の患者が多いのが特徴です。次いで多いのがF4+F50です。成人の受診者が主です。最近は、外来で、中学生、高校生の受診者も漸増（F7+8+9）。高齢の幻覚妄想状態を呈し入院治療を要する患者（F0）も増えています。

2 1) 施設名：一般財団法人療道協会 西山病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：國政靖史
- ・指導責任者氏名：吉田佳郎
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 287 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	195	107
F1	8	8
F2	313	308
F3	320	74
F4 F50	213	17
F7 F8 F9	43	11

F6	3	0
その他	10	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は病床数287床の民間精神科病院です。病棟は5単位（5病棟）で運営しており、内、1病棟は認知症治療病棟で、思春期から高齢者までさまざまな精神疾患に対応することができます。以下に当院の特徴をあげます。

- ① 京都府の二次医療圏である乙訓地区の7病院懇話会に参加しており、一般病院との連携において感染症、医療安全管理、救急医療などの重要性について学ぶことができる。
- ② 京都府の認知症疾患医療センターに指定され、認知症治療病棟を有しており、認知症医療の実際を学ぶことができる。
- ③ 京都府南部精神科救急医療システム事業に参画しており、救急指定日においては、担当精神保健指定医から精神科救急の実際を学ぶことができる。
- ④ 精神科訪問看護サービスを実施しており、訪問看護師あるいは地域診療部医師に同伴して、訪問看護、訪問診療の実際を学べる。

2 2) 施設名：医療法人貴生会 和泉中央病院

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：生谷昌弘
- ・指導責任者氏名：生谷昌弘
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 206 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	428	92
F1	10	6
F2	315	101
F3	310	53
F4 F50	338	11
F4 F7 F8 F9 F50	365	15

F6	10	5
その他	18	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神科206床の単科精神科病院である。最寄り駅にメンタルクリニックを開設して連携している。地域の精神医療を支えることを理念とし、統合失調・気分症・認知症 神経症などの急性期から在宅での生活支援まで、PSW・臨床心理士・作業療法士・看護師などとチームで活動しており、精神医療全般を広く学ぶことができる。入院部門として急性期治療病棟と認知症治療病棟、二つの精神療養病棟があり、夜間休日を含めて常時指定医が勤務し、地域の救急医療(精神科輪番、精神科身体合併症ネットワーク)に協力している。医療保護入院 措置入院 行動制限などの症例や、退院促進についても学ぶことができる。外来部門は一般外来(予約制)、カウンセリング(自費) デイケア・ デイナイトケア・重度認知症デイケア・訪問看護(24時間)・ホームヘルプに加えグループホーム・生活訓練施設があり、在宅支援 精神科リハビリについて学ぶことができる。専門外来として物忘れ外来を実施しており、MRI 神経心理検査を実施している。地域の医師会と協力して認知症予防のための相談会を実施し学会発表を行っている。また、メンタルクリニック、リハビリテーションセンターにおいては、主にうつ病、神経症圏の患者の症例 心理教育 就労支援を学ぶことができる。院内のIT化にも努めており電子カルテ・オーダーリング・無線LAN環境を整備し、MRIなどの画像システム・臨床検査（院内でほぼ可能）のデータの取り込み管理も一元化されている。

2.3) 施設名：一般財団法人長岡記念財団 長岡ヘルスケアセンター

- ・施設形態：私立精神科病院
- ・院長名：畑典男
- ・指導責任者氏名：畑典男
- ・指導医人数：( 7 ) 人
- ・精神科病床数：( 441 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	107	195
F1	18	13

F2	707	571
F3	607	337
F4 F50	271	30
F4 F7 F8 F9 F50	91	18
F6	20	4
その他	20	14

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

専門医療としては児童・思春期精神科、認知症があり、また医療監察法指定通院医療機関として触法精神障害の社会復帰を促進、さらに鑑定入院の受入れも行っています。ストレスケア病棟では認知行動療法、SST、カウンセリングなど様々な心理社会的プログラムを取り入れ、最適な治療環境を提供しています。近年は訪問看護・アウトリーチ支援に力を入れ、患者の地域生活支援体制を充実させています。

2 4) 施設名： 医療法人恒昭会 藍野花園病院

- ・施設形態： 私立精神科病院
- ・院長名： 清水信夫
- ・指導責任者氏名： 清水信夫
- ・指導医人数：( 9 ) 人
- ・精神科病床数：( 606 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来合計（年間）	入院合計（年間）
<b>F0</b>	1 9 3	2 9 3
<b>F1</b>	1 2 6	1 1 8
<b>F2</b>	4, 8 9 9	4, 7 4 1
<b>F3</b>	1, 6 4 4	5 0 2
<b>F4</b>	5 8 3	6 2
<b>F5 (内 F50)</b>	1 3 1 ( 3 )	7 5 ( 0 )
<b>F6</b>	1 2	3

<b>F7</b>	3 9	6 1
<b>F8</b>	2 1	3 5
<b>F9</b>	1 2 7	1 2
<b>F4 F7 F8 F9 F50 で 18 歳未満</b>	1 4	0

F5 は F5 全体の症例数と ( ) 内に F50 摂食症の症例数を記入

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

近郊都市茨木の中心部からさほど遠くない場所にあるという特性からか、最近を受診患者の多様性が増してきている。

抗精神病薬だけでなく睡眠薬や抗パーキンソン薬などについても処方の軽量化を進めてきており、とりわけ非定型抗精神病薬については本格的に導入されて以来処方の単純化を診療方針の前面に打ち出している。ちなみに、統合失調症の入院患者に対する抗精神病薬の単剤化率57%強は、全国300床以上の精神科病院の中で第一位を誇っている。

統合失調症患者だけでなく双極症，神経症圏の疾患，神経発達症など，外来・入院ともに多彩な疾患・多彩なステージの症例を経験することが可能である。

長期入院患者の地域移行において病院近隣に居住する患者が多く，必然的に往診や訪問看護にも力点を置いている。多職種医療チームによる24時間電話相談・訪問を主として近隣に居住する患者を対象に実施しており，退院後の生活の不安を軽減する努力は患者から好評を得ている。

また，周辺地域の老年期精神障害（認知症を含む）の患者の要請も増加しつつあり，診療だけでなく認知症対策（主として予防）のための地域一体となつての啓発活動を開始している。

その他，光トポグラフィーによる診断システムの導入も検討中であり，さらには血液内科医が常在している環境を生かしクロザリル導入の準備も進めている。

2 5) 施設名：豊郷病院

- ・施設形態：公益財団法人
- ・院長名：難波江正浩
- ・指導責任者氏名：阪上悌司
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 120 ) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	660	40
F1	25	10
F2	411	202
F3	420	107
F4 F50	411	13
F7 F8 F9	99	6
F6	2	0
その他	320	51

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

年間外来の延べ人数は21409人である。年間入院患者数は、現在の入院患者実数に、過去一年間の退院者数を加えたものである。

当院は、一般病棟186床と療養病棟32床の216床に、精神病棟120床を加えた合計338床を有する総合病院であり、器質性・器質性精神病やてんかんから内因性精神病まで、また、思春期症例から老人性認知症までの多彩な疾患・症例を経験することが出来る。身体合併症症例も多い。精神科病棟では統合失調症や気分症を主として治療し、保護室4床と観察室2床を備え、指定病院として措置患者を引き受けている。修正型電気けいれん療法も随時施行し、クロザピン治療も行っている。

また、当院には認知症疾患医療センターと臨床精神医学研究所が併設され、4-5月に週一回「やさしい精神医学講座」を、また毎年1月に新春学術講演会を開催しながら地道な臨床研究を続け、毎年研究所年報を発行している。

### 3. 研修プログラム

#### 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念と病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

## 到達目標

1年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分症、器質性精神障害、摂食症等の入院患者を担当し、精神科医としての基礎を学ぶ。すなわち、

1) 患者や家族と良好な治療関係を築き (1. 患者及び家族との面接)、精神科に関連した法律のもとで人権に配慮しながら (10. 法と精神医学、12. 医の倫理)、安全に治療する (13. 安全管理) ことを学ぶ。

2) 精神疾患の診断を体系的に学び (2. 疾患概念と病態の理解)、診断面接と補助検査法を組み合わせながら正確な精神科診断に到達することを学ぶ (3. 診断と治療計画、4. 補助検査法)。

3) 薬物療法、支持的精神療法、身体療法として電気けいれん療法を実践し、治療計画の立案を学ぶ (5. 薬物・身体療法、6. 精神療法)。

上記の知識や技能については、臨床での実践を中心に、講義、講習会 (医療倫理、医療安全、院内感染対策を含む)、書籍、ビデオを通じて学ぶ。毎週開催されている院内の症例検討会にて発表・討論し、興味深い症例は地方会にて発表・討論する。神経内科、緩和ケア科等の関連診療科とも必要に応じて症例検討会を行っている。地方会にて少なくとも1回は発表し、指導医からプレゼンテーションの指導を受ける。基幹病院および連携病院では書籍や国内外の主要な雑誌が購入されており、インターネットも利用することができる。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、より自立した精神科医を目指す。入院診療に加えて外来診療も行いながら、神経症圏、パーソナリティ症圏、神経発達症圏を含めた診断能力の向上 (3. 診断と治療計画) を目指す。薬物療法の技法を向上させ (5. 薬物・身体療法)、支持的精神療法に加えて認知行動療法や力動的精神療法の考え方と技法を学ぶ (6. 精神療法)。精神科病院勤務の場合は精神科救急 (8. 精神科救急、13. 安全管理)、精神科リハビリテーション (7. 心理社会的療法)、司法精神医学 (10. 法と精神医学)、訪問診療等の地域医療および地域連携を、総合病院勤務の場合はリエゾン・コンサルテーション (9. リエゾン・コンサルテーション精神医学)、災害対応 (11. 災害精神医学) を学ぶ。

院内外の症例検討会や学会にて発表・討論する。

3年目：連携病院で経験を積みながら、指導医から自立して診療できるよう、診断および治療能力のさらなる向上を目指す。2年目同様に、精神科病院勤務の場合は精神科救急 (8. 精神科救急、13. 安全管理)、精神科リハビリテーション

(7. 心理社会的療法)、司法精神医学 (10. 法と精神医学)、訪問診療等の地域医療および地域連携を、総合病院勤務の場合はリエゾン・コンサルテーション (9. リエゾン・コンサルテーション精神医学)、災害対応 (11. 災害精神医学) を学ぶ。連携病院は、総合病院、精神科病院の他に、児童福祉センター、行政機関、大学院などより幅広い選択肢の中から、専攻医の関心や志向性に配慮しながら選択する。院内外の症例検討会や学会にて発表・討論する。

## 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

## 3) 個別項目について

### ① 倫理性・社会性

1年目は指導医と共に、2年目以降は指導医の指導を受けながら診療に当たる中で、医師としての責任や社会性、倫理性について、指導医を始め先輩医師や同僚、他職種のスタッフから学ぶ。精神科病棟で他職種と協力したり、身体合併症治療やリエゾン・コンサルテーションで身体科の医師・スタッフと協力したりする中で、コミュニケーション能力を育む。基幹施設において他科の専攻医と共に倫理面やコミュニケーションの研修会が実施される。

### ② 学問的姿勢

専攻医は全ての研修期間を通じて、担当した症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や専門誌への投稿が推奨される。エビデンスに基づく医療を実践するため、院外で定期的に開催される勉強会で学習し、必要な文献を検索する習慣をつける。基幹施設である京都大学は日本有数の研究レベルを誇り、各種の研究会や、連携施設と共同して行っている臨床研究への協力を通じて、学問的姿勢を身に着ける。

### ③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 医師患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、4) 継続的な学習と向上、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

### ④ 学術活動 (学会発表、論文の執筆等)

興味ある症例については、地方会等での発表や専門誌への投稿が推奨される。基幹施設や連携施設において臨床研究に従事し、その成果を学会や専門誌に発表する。

⑤ 自己学習

京都周辺で開催される多数の研修会や勉強会の情報がウェブ上で管理されており、それらへの参加が奨励される。

4) ローテーションモデル

典型的には、1年目に基幹病院（京都大学医学部附属病院）をローテートし、精神科医としての基本的な知識と技能を身につける。2年目と3年目は、総合病院精神科と精神科病院を各1年ずつローテートし、精神症圏、うつ・神経症圏、器質性障害圏を中心に入院治療と外来治療を幅広く経験し、精神療法、薬物治療、生物学的・心理検査、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技能を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。また、採用枠等の事情により、各施設での研修期間の増減は生じうる。

さらに、3年目では、児童福祉センター、行政機関、大学院などより幅広い選択肢の中から、専攻医の関心や志向性に配慮しながら選択することも可能である。主なローテーションパターンについては、別紙に示す。

5) 研修の週間・年間計画

別紙を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

委員長：医師 村井俊哉

医師：久保田学

医師：畑典男

医師：吉田佳郎

医師：生谷昌弘

医師：藤川昌典

医師：清水信夫

医師：狩場一郎

医師：石岡芳隆

医師：胡谷和彦

医師：栗本藤基

医師：崔炯仁  
医師：芝伸太郎  
医師：村上純一  
医師：和田央  
医師：田中祐輔  
医師：村松陽子  
医師：上野千穂  
医師：荒木賢介  
医師：飯野龍  
医師：高木賢一  
医師：阪上悌二  
医師：三木寛隆  
医師：柴崎守和  
医師：岸信之  
医師：山村茂樹  
医師：梅本愛子  
医師：金沢徹文  
医師：西田拓司  
医師：吉田貴子  
医師：丸井規博  
精神保健福祉士：米田拓矢  
臨床心理士：栗添恵理

・プログラム統括責任者

村井俊哉

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

京都大学医学部附属病院：村井俊哉

京都大学医学部附属病院：久保田学

大阪赤十字病院：和田央

京都府立洛南病院：吉岡隆一

いわくら病院：崔 炯仁

北野病院：高木賢一

豊岡病院：三木寛隆

光愛病院：藤川昌典  
小浜病院：山村茂樹  
京都博愛会病院：荒木賢介  
京都桂病院：挾間雅章  
関西青少年サナトリウム：内藤憲一  
京都医療センター：吉田貴子  
大阪府立精神医療センター：岩田和彦  
阪本病院 胡谷和彦  
大津赤十字病院：田中祐輔  
京都児童福祉センター：村松陽子  
静岡てんかんセンター：西田拓司  
滋賀里病院：栗本藤基  
もみじが丘病院：芝伸太郎  
光の丘病院：石岡芳隆  
湖南病院：柴崎守和  
西山病院：吉田佳郎  
和泉中央病院：生谷昌弘  
長岡ヘルスケアセンター：畑典男  
藍野花園病院：清水信夫  
豊郷病院：阪上悌司

## 2) 評価時期と評価方法

- ・ 6 か月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と各施設の指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と選考委がそれぞれ6 か月ごとに評価し、フィードバックする。達成度の判定の際には、看護師やケースワーカーなど他職種の意見も参考にする。
- ・ 1 年後に1 年間のプログラムの進行状況および研修目標の達成度を各施設の指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿を用いる。

## 3) 研修時に則るマニュアルについて

- ・ 「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1 回行う。

京都大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門

研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- ・ 専攻医研修マニュアル (別紙)
- ・ 指導医マニュアル (別紙)
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行う。研修を修了しようとする年度末には総括的評価によって評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこなう。評価者は「劣る」「やや劣る」の評価をつけた項目については必ずフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備 (労務管理)  
各施設の労務管理基準に準拠する。
- 2) 専攻医の心身の健康管理  
各施設の健康管理基準に準拠する。
- 3) プログラムの改善・改良  
基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
- 4) FDの計画・実施  
年1回、プログラム管理委員会が主導して各施設における研修状況を評価する。

京大精神科専門研修プログラム 研修ローテーションパターン例

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目
例 1	基幹病院 1 年間	総合病院 1 年間	精神科病院 1 年間
例 2	基幹病院 1 年間	精神科病院 1 年間	総合病院 1 年間

## 京大精神科専門研修プログラム

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

### 京都大学医学部附属病院

#### 週間計画

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 多職種カンファレンス	病棟業務	病棟業務 摂食障害カンファレンス	病棟業務	病棟業務 外来見学
午後	病棟業務 ECT 新入院カンファレンス	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン 研究ミーティング	病棟業務 リエゾン	病棟業務 ECT
夕方	精神病理学勉強会 (月 1 回)		医局会 医局セミナー		研究セミナー (月 1 回)

\*月 3 回程度、日直ないし当直

#### 年間計画

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会（任意参加） 教室主催研修会「初夏のセミナー」
7 月	近畿精神神経学会（年 1 回発表）
8 月	
9 月	
10 月	研修中間報告提出
11 月	総合病院精神医学会（任意参加）
12 月	
1 月	
2 月	近畿精神神経学会（年 1 回発表）
3 月	総括的評価

## 長岡ヘルスケアセンター

曜日等	時 間	事 項
月曜日	8:30	入院診療
	13:00	入院診療
	16:30	医局カンファレンス
火曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
水曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
	14:00	病棟カンファレンス
木曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
金曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
	15:00	講義

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
	日本老年精神医学会参加
7月	
8月	
9月	
10月	日本児童青年精神医学会参加
11月	地方精神神経学会参加・演題発表
12月	
1月	
2月	財団研究発表会
3月	総括的評価

西山病院

	月	火	水	木	金
8:30 ～ 9:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
9:00 ～ 12:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00 ～ 17:00	病棟業務  医局会 症例検討会	リエゾン 業務 内科医への コンサルテーション	デイケア 実習	病棟業務	病棟業務

4月	新入医局員・研修医オリエンテーション
5月	行動制限最小化研修（院内）、医療安全管理対策研修（院内）、感染対策研修（院内）
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	近畿精神神経学会（地方会）参加
8月	家族教室参加（院内）
9月	
10月	
11月	乙訓地区医学会参加（演題発表） 京都精神科病院協会ピアレビュー（他精神科病院実地見学）
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会（地方会）参加
3月	年間の研修報告および研修評価

和泉中央病院

	月	火	水	木	金	土
始業前	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	
午前	外来予診 デイケア	外来予診 病棟業務	外来業務	クリニック クリハビリ	認知症デイ デイナイト ケア	
午後	病棟業務 医局会 入退院カンファレンス	訪問看護 同行 病棟業務	往診同行 病棟業務	心理教育 S S T	病棟業務 作業療法 院内教育研修会(不定期)	
	薬剤説明 会(不定期)			精神科勉強 会		

4月	オリエンテーション
5月	
6月	精神神経学会参加 老年精神学会参加
7月	日本うつ病学会
8月	
9月	生物学的精神医学会参加
10月	精神病理学会参加
11月	大阪府医師会学会参加 発表
12月	
1月	
2月	
3月	統合失調学会

光愛病院

	月	火	水	木	金
8:50 ～ 9:00	ベッドコント ロール会議	ベッドコント ロール会議		ベッドコント ロール会議	ベッドコント ロール会議
9:00 ～ 12:00	外来	病棟業務	クリニック 外来	病棟業務	病棟業務
13:00 ～ 17:00	病棟業務	病棟業務	往診	病棟業務	病棟業務
17:00 ～	医局会				症例検討会

月に1回、土曜日に出勤日をもうけ、入院への対応を行っている。

4月	法人オリエンテーション
5月	こうあい市民講座、院内症例検討会
6月	日本精神神経学会 学術集会（任意）
7月	こうあい市民講座、院内症例検討会
8月	
9月	こうあい市民講座、院内症例検討会
10月	日本児童青年精神医学界 学術集会（任意）
11月	日本精神分析学会大会（任意） こうあい市民講座、院内症例検討会
12月	日本認知症学会 学術集会（任意）
1月	こうあい市民講座、院内症例検討会 （仮）日本精神科救急学会 学術集会（任意）
2月	光愛学会
3月	こうあい市民講座、院内症例検討会

藍野花園病院

	月	火	水	木	金	土
9:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
12:00	アウトリーチ	アウトリーチ	アウトリーチ	アウトリーチ	アウトリーチ	アウトリーチ
13:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
15:00	アウトリーチ	アウトリーチ	アウトリーチ	症例検討会	アウトリーチ	アウトリーチ
15:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00	スーパービジョン	スーパービジョン	スーパービジョン	スーパービジョン	スーパービジョン	スーパービジョン
16:00	(医局会) 症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討
17:00						

4月	新入局員オリエンテーション
5月	同門学術総会参加
6月	日本精神神経学会参加 日本老年医学会参加 (任意)
7月	近畿精神神経学会参加・発表 日本うつ病学会参加 (任意)
8月	躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会参加 (任意)
9月	日本生物学的精神医学会参加 (任意)
10月	世界精神科遺伝会議参加 (任意) 日本児童青年医学会参加 (任意) 急性精神病フォーラム参加 (任意) 日本てんかん学会参加 (任意)
11月	日本臨床精神神経薬理学会 (任意)
12月	
1月	新春同門学術総会参加
2月	近畿精神神経学会参加
3月	

関西青少年サナトリウム

	月	火	水	木	金
8:50 ～ 12:00	症例検討会 病棟業務	修正型電気 けいれん療法 病棟業務	デイケアカン ファレンス 病棟業務	病棟業務	修正型電気 けいれん療法 病棟業務
13:00 ～ 17:00	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務 病棟カンファ レンス	病棟業務
17:00 ～ 18:30	医局会				
18:30 ～ 20:00	抄読会 (不定期)				

時期	研修内容
4月	オリエンテーション 指導医の外来初再診・病棟診に陪席
5月	外来初再診・病棟診・m-ECT(指導医のバックアップあり)
6月	外来初再診・病棟診・m-ECT(指導医のバックアップあり) 日本精神神経学会に出席
7月	外来初再診・病棟診・m-ECT(指導医のバックアップあり)
8月	外来初再診・病棟診(指導医のバックアップあり)
9月	外来初再診・病棟診(指導医のバックアップあり)
10月	院内学会で発表
11月	外来初再診・病棟診・クロザリル使用の実務(指導医のバックアップあり)
12月	外来初再診・病棟診・クロザリル使用の実務(指導医のバックアップあり)
1月	外来初再診・病棟診・クロザリル使用の実務(指導医のバックアップあり)
2月	外来初再診・病棟診(指導医のバックアップあり)
3月	外来初再診・病棟診(指導医のバックアップあり)

光の丘病院

	日	月	火	水	木	金	土
午前	休み	病棟業務	回診、入退院報告 多職種カンファレンス ケースカンファレンス	外来業務	病棟業務	外来業務	休み
午後		薬物療法勉強会 病棟業務	医局会(第2週) 運営会議(第3週)	外来業務	デイケア業務 病棟業務	(認知症疾患医療センター研修) 認知症症例検討会 アウトリーチ	
5時半以降	当直(月1回)	当直(曜日固定で週1回)					

月	学会・研修会など
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	近畿精神神経学会参加・発表、備後地区精神科研究会の講演会に参加
8月	
9月	広島県認知症疾患医療センター(福山・府中圏域)主催の福山・府中地区認知症を考える研修会に参加
10月	広島県認知症疾患医療センター合同研修会に参加
11月	中国・四国精神神経学会参加・発表(任意)
12月	
1月	備後地区精神科研究会の症例検討会に参加・発表
2月	近畿精神神経学会参加・発表
3月	光の丘病院院内学会に参加・発表
その他	医師会主催の「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の各研修会に参加

聖和錦秀会阪本病院

	月	火	木	金	土
9:00 ～ 10:00		医局症例カンファレンス	医局・心理カンファレンス	医局症例カンファレンス	
9:00 ～ 12:00	外来業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
12:00 ～ 13:00				医局会	
13:00 ～ 17:00	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00 ～ 17:00				病棟カンファレンス	医局新入院症例カンファレンス

月に1回、17:15～18:45 医局症例検討会

4月	オリエンテーション
5月	公益財団法人大阪難病研究財団 公開セミナー
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	当事者研究全国交流集会参加（任意）
9月	
10月	日本児童青年医学会参加（任意）
11月	日本デイケア学会参加（任意）
12月	
1月	
2月	公益財団法人大阪難病研究財団 公開セミナー
3月	公益財団法人大阪難病研究財団 公開セミナー 日本統合失調症学会参加（任意）
その他	医局症例検討会（月1回、発表は年1回） 看護事例検討会（月1回、任意） 作業療法士事例検討会（月1回、任意） 院内輪読会（月3回）

滋賀里病院

	月	火	水	木	金	土
9:00 ～ 9:30	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	入退院カンファレンス	
9:00 ～ 12:00	病棟業務 外来業務 デイケア 作業療法	病棟業務 外来業務 デイケア 作業療法	病棟業務 外来業務 デイケア 作業療法	病棟業務 外来業務 デイケア 作業療法	病棟業務 外来業務 デイケア 作業療法	病棟業務
13:00 ～ 17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

※相談し、土曜または平日のいずれか1日を休みとする

4月	オリエンテーション デイケア、作業療法、グループホーム等 授産施設見学
5月	各疾患講義 精神科集談会参加（希望者）
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会参加（希望者）
8月	
9月	
10月	
11月	精神科集談会参加（希望者）
12月	日本精神科救急学会参加（希望者）
1月	
2月	
3月	総括評価 研修プログラム評価報告書の作成

医療法人稲門会 いわくら病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:45 ～ 9:20	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
9:20 ～ 9:45	病床運営 ミーティング	病床運営 ミーティング	病床運営 ミーティング	病床運営 ミーティング	病床運営 ミーティング	病床運営 ミーティング	
9:45 ～ 12:15	病棟業務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	
13:15 ～ 17:00	病棟業務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務		
17:00 ～ 18:00		医局会					

※外来勤務（午前半日/週）

※新患当番（1日/週）

4月	院内の医療安全対策, 院内感染対策, 情報管理, 褥瘡対策研修 CVPPP 研修(基礎編)
5月	リスクマネジメント研修 CVPPP 研修(応用編)
6月	医薬品の安全管理
7月	
8月	KYT 研修
9月	精神科トピックス(院外講師による講演会)
10月	院内感染対策委員会による研修会 KYT 研修
11月	院内感染対策委員会による研修会 BLS 研修
12月	
1月	行動制限に関する研修
2月	禁煙対策研修
3月	

※毎月1回 症例検討会

医療法人博友会 まるいクリニック 専門研修プログラム

週間計画

	月	火	水	木	金	土
8:45 9:30	ミーティ ング	ミーティ ング	ミーティ ング	ミーティ ング	医局会議	
9:30  12:30	外来診療	外来診療	デイケア	就労移行 支援事業 所	外来診療	家族教室 (9回/ 年)・発達 障害集団 療法
13:15  16:45	外来診療	外来診療	デイケア	就労移行 支援事業 所	外来診療	認知行動 療法研究 会(1回/ 月)
16:45  17:30	指導医と の会議		カンファ レンス・ 症例検討 会(1回/ 月)	就労移行 支援事業 所	ナイトケ ア	京都発達 臨床研究 会(1回/2 か月)

年間計画

4月	新人研修
5月	京都発達臨床研究会・家族教室
6月	日本精神神経学会(任意参加)・家族教室
7月	日本外来精神医学会・京都発達臨床研究会・家族教室
8月	
9月	京都発達臨床研究会・家族教室
10月	家族教室
11月	京都発達臨床研究会・家族教室
12月	
1月	京都発達臨床研究会・家族教室
2月	近畿精神神経学会(任意参加)・家族教室
3月	京都発達臨床研究会・家族教室・総括的評価

もみじヶ丘病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:30 ～ 9:15	病棟回診	研究日	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	日当直 (月に1回程度)
9:30 ～ 12:00	病棟		デイケア	外来 (予診)	病棟	病棟	
13:00 ～ 17:00	病棟		デイケア	クルズス 症例の検討	外来 (予診)	病棟	
17:30 ～ 18:30	医局会 (第3月曜は 事例検討会)			当直 (週に1回程度)			
18:30 ～ 19:30	医局会 (第3月曜)						

4月	オリエンテーション
5月	
6月	精神病理懇話会
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	精神病理懇話会
12月	
1月	
2月	
3月	

琵琶湖病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30 ～ 9:00		精神科 病棟回診	精神科 病棟回診	カンファ レンス	
9:00 ～ 12:00	外来	外来	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00 ～ 16:30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	外来	外来
16:30 ～ 17:30	抄読会 症例検討会				

年間スケジュール

4月	初任者研修 オリエンテーション
6月(例)	各種学会参加
11月(例)	各種学会参加
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書作成

院内・院外研修

- ① 院内研修  
院内症例検討会(毎週1回)
- ② 院外研修  
日本精神神経学会など主な精神科領域学会や講習会への積極的参加を促している。

大阪医科薬科大学病院精神神経科

	月	火	水	木	金	土 (第 1. 3. 5)
午前	ECT 朝の会・ 入院報告 教授回診	外来業務 (リエゾン含)	ECT 外来業務 (リエゾン含)	ECT 外来業務 (リエゾン含)	外来業務 (リエゾン含) 物忘れ外来 見学 (任意)	外来業務 (リエゾン含)
午後	病棟患者 カンファレンス	病棟業務 ジェンダー外来 見学 (任意)	病棟業務 緩和ケアチーム カンファレンス 集団精神療法	病棟業務 物忘れ外来 見学 (任意)	病棟業務 思春期外来 見学 (任意)	病棟業務
17:00 以降	医局会 研究室勉強会			思春期勉強会	認知症勉強会	

- 4月      オリエンテーション  
            シニアレジデント1年目 研修開始  
            シニアレジデント2、3年目 前年度研修報告書提出  
            指導医の指導実績報告書提出
- 5月      同門学術総会参加
- 6月      日本精神神経学会参加・発表  
            二大学(関西医科大学と合同開催)研究会参加・発表  
            日本老年精神医学会参加 (任意)
- 7月      近畿精神神経学会参加・発表  
            日本うつ病学会参加 (任意)
- 8月      躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会参加 (任意)
- 9月      日本生物学的精神医学会参加 (任意)
- 10月     シニアレジデント1、2、3年目研修中間報告書提出  
            世界精神科遺伝会議参加 (任意)、日本児童青年医学会参加 (任意)  
            急性精神病フォーラム参加 (任意)、日本てんかん学会参加 (任意)
- 11月     日本臨床精神神経薬理学会 (任意)、日本総合病院精神医学会 (任意)
- 12月     研修プログラム管理委員会開催
- 1月      新春同門学術総会参加
- 2月      近畿精神神経学会参加・発表
- 3月      シニアレジデント1、2、3年目研修報告書  
            研修プログラム評価報告書の作成

## 大阪赤十字病院

### 週間計画

	月	火	水	木	金
8:30 ～ 12:00	病棟カンファ 病棟業務	病棟カンファ レンス 病棟業務	外来診療（再 診）	病棟カンファ 精神鑑定面 接陪席	病棟カンファ 病棟業務
13:00 ～ 16:00	病棟業務 初診外来 他科依頼外来 診察	緩和ケアチ ームに参加	診療会議、 外来患者カン ファレンス	他科往診	病棟業務
16:00 ～ 17:00	病棟業務	病棟業務	医局会	病棟業務 読書会	病棟業務

### 年間計画

4月	オリエンテーション
5月	全国赤十字精神科懇話会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	総合病院精神医学会有床フォーラム参加
8月	
9月	
10月	
11月	総合病院精神医学会有床学術総会参加
12月	上六精神医学フォーラム参加
1月	
2月	
3月	総括的評価

大津赤十字病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:30 ～ 12:00	外来診療 (予診・陪診 を含む)	外来診療 (予診・陪診 を含む)	外来診療 (予診・陪診 を含む)	各病棟のせ ん妄患者へ の対応	外来診療 (予診・陪診 を含む)		
13:00 ～ 16:00	各病棟に往診	各病棟に往 診	各病棟に往診	緩和ケアチ ーム活動 と、精神科 リエゾンチ ーム活動	各病棟に往 診		
16:00 ～ 17:00	担当患者につ いて指導医か らの指導	文献等の紹 介と抄読	担当患者につ いて指導医か らの指導	神経科・精 神科カンフ ァレンス	担当患者につ いて指導 医からの指 導		

4月	オリエンテーション（電子カルテ操作の習熟を含む）
5月	保健医療制度・医師が作成する必要がある書類等に関する説明と実際
6月	精神科医療と精神療法に関する説明と実際
7月	精神科薬物療法に関する説明と実際
8月	（8～9月に、夏期休暇、合計3～5日間取得可能）
9月	精神科で出会う代表的疾患に関する説明と実際（1）
10月	精神科で出会う代表的疾患に関する説明と実際（2）
11月	コンサルテーション・リエゾン精神医学（1）
12月	コンサルテーション・リエゾン精神医学（2）
1月	4月以降に経験例について、ケースレポートの作成（1）
2月	4月以降に経験例について、ケースレポートの作成（2）
3月	1年間のまとめ・反省・補足

京都市児童福祉センター診療所

	月	火	水	木	金
8:30～ 12:00	外来	外来	外来	外来 (勉強会)	外来
13:00～ 17:15	外来	外来	外来	外来	外来
17:15～				医局会議	

\*別紙 研修内容を外来時間内に行う

4月	オリエンテーション 自閉症スペクトラム入門学習会 1 参加 高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 1 参加
5月	自閉症スペクトラム入門学習会 2 参加 高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 2 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 3 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加
7月	高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 4 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加
8月	自閉症カンファレンス NIPPON 参加 (任意)
9月	高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 5 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加
10月	日本児童青年精神医学会参加 (任意) 高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 6 参加
11月	高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 7 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加
12月	高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 8 参加 PECS 勉強会 2 参加
1月	高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 9 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加
2月	高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 10 参加 TEACCH コラボレーションセミナー参加 (任意)
3月	研修プログラム評価報告書の作成 高機能自閉症・アスペルガー症候群保護者学習会 11 参加 自閉症スペクトラム実践学習会 1 参加

京都市第二児童福祉センター診療所

年間スケジュール

週間計画

	月	火	水	木	金
午前	外来業務	外来業務 第三：教育委員会・発達相談所・診療所3者会議	外来業務	外来業務	外来業務
午後	外来業務	外来業務 第4：拡大療育手帳会議（発達相談所）	外来業務	外来業務 （第3：医局会、発達障害者支援センターとの会議、連携医会議：児福センターにて）	外来業務
夕方 （勤務外）	学校、児相、児童養護施設等とのカンファレンス（随時）		学校、児相、児童養護施設等とのカンファレンス（随時）	医局会（毎週） 小児科合同医局会（第4） 児福センターにて	学校、児相、児童養護施設等とのカンファレンス（随時）

勤務：午前8時半から午後5時15分まで

外勤：（学校、施設、一人暮らし宅）訪問を児相職員と行うことあり

初診：発達外来、児相依頼初診、至急初診等

必要時に、児相とのカンファレンス、援助方針会議等に参加

必要時：

精神保健指定医、精神科専門医、子どものこころ専門医、児童青年精神医学会認定医のレポートチェック、学会発表スライドチェックなど

その他、ケース担当の配慮、研修会の案内など

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	精神神経学会参加（任意） 子どもの虹情報研修センター研修参加 （任意 児相に勤める医師の研修会）
7月	近畿精神神経学会（京大医局より年1回発表）
8月	近畿児童青年精神保健懇話会（大阪にて任意）
9月	
10月	
11月	日本児童青年精神医学会総会（任意） 日本子ども虐待防止学会（任意）
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会（京大医局より年1回発表）
3月	総合評価 子どもの虹情報研修センター研修参加 （任意 児相に勤める医師の研修会）

京都博愛会病院

	月	火	水	木	金	土	日		
8:30 ～ 12:30	多職種ミーティング 外来診察 病棟業務 リエゾン	多職種ミーティング 外来診察 病棟業務 リエゾン	多職種ミーティング 外来診察 病棟業務 リエゾン	多職種ミーティング 外来診察 病棟業務 リエゾン	多職種ミーティング 外来診察 病棟業務 リエゾン	外来診察 病棟業務 リエゾン			
13:30 ～ 14:00	診療会議	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン				
14:00 ～ 16:00	病棟業務 リエゾン							病棟カンファレンス (月2回)	リハビリテーションカンファレンス (月1回)
16:00～ 17:00	多職種カンファレンス 精神科医局会 新入院報告会							精神科医局カンファレンス	病棟業務 リエゾン

他に、院外多職種とのカンファレンスを不定期に開催している。

4月	新入局員オリエンテーション
5月	認知症サポート医連絡会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会総会参加 地区医師会カンファレンス参加
8月	
9月	
10月	
11月	日本総合病院精神医学会総会参加・演題発表 精神保健相談合同連絡会参加
12月	日本精神障害者リハビリテーション学会参加
1月	
2月	休日精神科医療体制検討会参加 認知症サポート医連絡会参加
3月	

京都府立洛南病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
8:30~ 12:00	朝ミーティング 病棟申送り 病棟業務	朝ミーティング 外来業務	朝ミーティング 病棟申送り 病棟業務	(遅出)	朝ミーティング 病棟申送り 病棟業務	(当直)	当直 明け
13:00 ~ 17:15	病棟業務 症例検討会	病棟業務 デイケア業務	病棟業務 病棟カンファレン ス	病棟業務	外来業務 経頭蓋磁気刺激治 療(任意)	(当直)	
夜間		光トポグラフィー 判読(2/月)	17:30~19:00 医 局会 認知症カンファレ ンス	22:00 まで 病棟業務		(当直)	

土、日に当直した場合は平日に公休あり

年間スケジュール

4月	新職員オリエンテーション
5月	院内研修
6月	日本精神神経学会
7月	院内研修(行動制限最小化)
8月	京都府医師会精神科医会研修、京大夏のセミナー
9月	院内研修(医療安全)
10月	人権研修
11月	院内研修(感染症)
12月	院内研究発表会
1月	院内研修(感染症)
2月	近畿精神神経学会、京都精神科病院協会研修
3月	院内研修(医療安全)

公益財団法人田附興風会北野病院

	月	火	水	木	金	土
8:45~ 17:00	外来業務 他科依頼対応	外来業務 他科依頼対応	新患初診 外来業務 他科依頼対応	外来業務 他科依頼対応	外来業務 他科依頼対応	外来業務 他科依頼対応 (8:45-15:00)
			ケース・カンファ レンス (16:30-18:00)	緩和ケア会議 (17:00- 18:00)		
				抄読会 (18:00- 20:00)		

4月	オリエンテーション 以後毎月：各種全国規模の関連学会への参加（任意） 以後毎月：精神科診療所協会主催の講演会への参加（任意） 以後毎月：京都大学で開催される各種研究会への参加（任意） 以後毎月：近隣病院精神科医師を交えての定例研究会への参加（推奨）
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会（推奨）
7月	
8月	地区大学合同研修会（推奨）
9月	
10月	
11月	地方精神神経学会（推奨） 当院共催の近畿地区精神科医の懇話会への参加（推奨）
12月	
1月	
2月	
3月	研修報告会

豊郷病院

	月	火	水	木	金
9:00~ 12:00	外来予診	外来予診 mECT	外来予診 mECT	外来予診 mECT	外来予診 mECT
13:00~ 16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00~ 17:00	新入院患者 紹介・チー ムカンファ レンス	看護・医師 の院内研究 会	病棟業務	医局研究会	退院カンファ レンス・医 局会

4月	豊郷病院・やさしい精神医学講座（オリエンテーション）
5月	豊郷病院・やさしい精神医学講座
6月	日本精神神経学会学術総会に参加
7月	
8月	精神神経学会近畿地方会に参加・演題発表
9月	豊郷病院臨床精神医学研究所・年報(紀要)に投稿
10月	
11月	
12月	
1月	豊郷病院臨床精神医学研究所・新春学術講演会
2月	精神神経学会近畿地方会に参加・演題発表
3月	研修総括

豊岡病院

月曜日	8:30-12:00 13:00-17:15	再来診療 再来診療、リエゾン新患
火曜日	8:45-12:00 13:00-15:30 15:30-16:00 16:00-17:15	病棟診療 病棟診療（病棟カンファレンスを含む） リエゾンカンファレンス 病棟診療
水曜日	8:30-10:00 10:00-12:00 13:00-17:15 17:15-	病棟診療 訪問診療 外来診療 外来カンファレンス、認知症カンファレンス
木曜日	8:30-12:00 12:00-14:00 14:00-15:00 15:00-17:15	外来診療 病棟診療 リエゾンラウンド 病棟診療
金曜日	8:30-12:00 13:00-15:00 15:00-17:15	病棟診療 集団精神療法 病棟診療

\* 上記は一例

\* M-ECT：週2回（年間100回弱）の助手適宜

\* ECTカンファレンス、クロザリルカンファレンス不定期

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会、アルコール依存症臨床医研修
7月	
8月	
9月	兵庫県総合病院精神医学会
10月	
11月	総合病院精神医学会、アルコール依存症臨床医研修
12月	
1月	

### 湖南病院

①	月	火	水	木	金	土
8:30 ～ 9:15		病床管理会議(毎週)、行動制限最小化委員会(月1回)	医局会	自己学習日 外部の医療機関での研修も可能)		医局事例検討会ないし勉強会
9:00 ～ 12:00	病棟業務	病棟業務(ないし外来診療)	病棟業務		病棟業務(ないし外来診療)	病棟業務(13時まで)
13:00 ～ 17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務		病棟業務	月1回家族教室
17:30 ～ 20:00		月1回 医局研究会(外来者を招くこともある)				不定期に行われる地域の研究会に参加

週に4日半勤務。月に数回当直勤務あり。アウトリーチ活動、訪問活動参加可。

自己学習日は週に1日。曜日は選択制。

病棟勤務がデイケアを担当に代わる場合がある。

病棟業務の中で、事例の検討会(多職種含めての)は、随時行われている。

4月	
5月	日本トラウマティック・ストレス学会参加(任意)
6月	日本精神神経学会参加、日本司法精神医学会参加(任意)
7月	
8月	
9月	日本家族研究・家族療法学会参加(任意)
10月	日本精神科救急学会参加(任意)
11月	
12月	日本精神保健・予防学会参加(任意)
1月	滋賀県発達障害精神医学研修会(滋賀県精神科診療所協会主催)参加
2月	日本社会精神医学会参加(任意)
3月	滋賀県精神神経科医会学術会議参加

京都桂病院

	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ～ 12:00	外来予診 リエゾン	外来予診 リエゾン	外来予診 リエゾン	外来予診 リエゾン	情短施設 養護施設 カンファ		
13:00 ～ 15:00	緩和ケア チーム 回診	リエゾン	リエゾン	外来診察	リエゾン	集団精神 療法研究 会	認知症 カフェ
15:00 ～ 16:00	せん妄・ 認知症ケ アチーム 回診	リエゾン	リエゾン	外来診察	リエゾン		
16:00 ～ 18:00	リエゾン	リエゾン	緩和ケア チーム カンファ	リエゾン	リエゾン		
18:00 ～ 19:00		17:30～ 精神科 カンファ レンス	せん妄・ 認知症ケ アチーム カンファ	院内学術 講演会 (不定 期)	院内 研修会 (不定期)		

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会に参加
7月	
8月	
9月	もの忘れ相談医セミナーに参加
10月	日本児童青年医学会に参加
11月	地域連携セミナーに参加
12月	
1月	認知症対応力向上研修会に参加
2月	
3月	日本集団精神療法学会に参加 もの忘れ相談医セミナーに参加

公立小浜病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン
13:00-14:00	病棟業務	病棟カンファレンス (東-2)	病棟業務	病棟カンファレンス (東-3)	病棟業務
14:00-16:00	医長回診	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:15	デイケア カンファレンス	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
19:00-20:00			AAミーティング (外来待合室)		

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	アルコール薬物依存関連学会合同学術総会参加(任意)
9月	
10月	
11月	福井県精神科集談会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

## 大阪精神医療センター

### ※週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
9:00 ～ 12:00	・病棟回診  ・スーパー救急病棟ケースカンファレンス	・m-ECT  ・外来初診インテーク	・病棟回診  ・医療観察法病棟カンファレンス	・外来初診インテーク	・m-ECT  ・病棟回診 ・医局ケースカンファ（外来）	・当直業務／外部の研究会・研修など（適宜）
13:00 ～ 17:00	・上級医外来診療陪席	・病棟回診	・上級医外来診療陪席	・病棟回診	・スーパー救急病棟ケースカンファ	
17:00 ～	・児童思春期ケースカンファ ・医局会（隔週）		・医局ケースカンファ（入院）			

### ※年間スケジュール

4月	オリエンテーション、新規採用者研修
5月	包括的暴力防止プログラム（CVPPP）研修（4日間） 院内第1回医療安全研修
6月	日本精神神経学会学術集会参加 日本司法精神医学会参加（任意）、日本老年精神医学会（任意）
7月	近畿精神神経学会参加、院内SST・心理教育研修会
8月	院内トピックス研修（内容は各年度当初に決定） 日本うつ病学会参加（任意）
9月	臨床研究基礎セミナー、臨床研修評価面談（中間）
10月	臨床研究基礎セミナー 日本精神科救急学会（任意）、日本児童青年精神医学会（任意）
11月	院内第2回医療安全研修、SST普及協会学術集会（任意）
12月	日本精神障害者リハビリテーション学会（任意）
1月	院内トピックス研修
2月	近畿精神神経学会参加、院内研究交流発表会（2日間）
3月	日本統合失調症学会（任意）、日本社会精神医学会（任意） 臨床研修評価面談（年度末）
その他	認知行動療法、依存症、認知症など、専攻医のニーズに合わせて外部の研修会に適宜参加する機会を確保する

静岡てんかんセンター

曜日	時間	事項
月曜	朝 午前 午後 夕方	勉強会 初診外来予診 病棟業務 脳波勉強会
火曜	朝 午前 午後 夕方	抄読会 回診、病棟カンファレンス 病棟業務 てんかん外科カンファレンス
水曜	朝 午前 午後 夕方	抄読会 初診外来予診 病棟業務 クリニカルカンファレンス
木曜	朝 午前 午後 夕方	抄読会 病棟業務 病棟業務、病棟カンファレンス 小児科カンファレンス参加可能
金曜	午前 午後 夕方	回診、初診外来予診 病棟業務 脳波ビデオカンファレンス

4月	静岡てんかん地域ネットワーク研究会参加
5月	てんかんリハビリテーション研究会参加
6月	日本精神神経学会総会参加、漆山てんかん懇話会参加
7月	発達障害関連研究会参加
8月	成人てんかんセミナー参加
9月	静岡てんかん地域ネットワーク研究会参加
10月	日本てんかん学会総会参加・発表、研修中間報告書提出
11月	ふじさん・脳波ハンズオンセミナー参加
12月	認知症研究会参加、MOSES トレーナーセミナー参加
1月	東海精神神経学会参加・発表
2月	全国てんかんセンター協議会総会参加
3月	オリエンテーション 1年目 研修開始 2年目・3年目 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出

京都医療センター

	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ～ 12:30	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察		
13:30 ～ 16:00	外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン	外来診察 リエゾン		
16:00 ～ 17:15	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討		

4月	○オリエンテーション 指導医の外来初診患者、病棟リエゾン初診患者診察に同席。
5月	病棟リエゾン初診患者診療開始。症例検討。
6月	○日本精神神経学会総会 外来初診患者診療開始し症例検討。
7月	担当患者数を徐々に増やし、指導医と症例検討継続。
8月	文献検索、論文抄読、時宜をはかり、症例発表。
9月	精神薬理学の知識をもとに、薬物療法に習熟してゆく。
10月	○日本精神病理学会 精神病理学的な洞察を深める。
11月	冷静で共感的な精神療法に習熟してゆく。
12月	探究的、研究的な臨床実践を身につけてゆく。
1月	心と脳の関係性を臨床の場で科学的な仮説を検討し検証してゆく。
2月	患者の病状変遷に柔軟に対応できるよう経験を重ねる。
3月	○研修の総括 適切な診断を身につけてゆく。